

**国の重要文化財（歴史資料）の指定及び国の登録有形文化財（建造物）への登録についての報告**

文化財課

国の文化審議会は、令和8年3月26日に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、本県に所在する文化財（歴史資料の部）1件を重要文化財に指定、県内4件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申した。この結果、官報告示を経て、県内の重要文化財（歴史資料の部）は8件、県内の登録有形文化財（建造物）は37箇所、91件となる予定である。

**国指定有形文化財件数（令和8年4月1日現在）**

種別	国宝	重文	合計
建造物	1	22	23
絵画	—	—	—
彫刻	—	—	—
工芸品	—	3	3
書跡・典籍	—	3	3
古文書	—	6	6
考古資料	—	2	2
歴史資料	1	7	8
合計	2	43	45

※今回指定される「琉球国之図」は、件数に含まれていない。これが指定されると重要文化財は44件（歴史資料の部1件が追加）となり、国宝とあわせた合計が46件となる。

**国登録文化財件数（令和8年4月1日現在）**

種別	箇所数	件数
登録有形文化財（建造物）	36	87
登録有形民俗文化財	—	2
登録記念物（遺跡関係）	—	3
登録記念物（名勝地関係）	—	7

※今回登録される「島根殿」は、件数に含まれていない。これが登録されると登録件数は37箇所、91件となる。

## 2 重要文化財(歴史資料)

### (1) 琉球国之図 1巻

【法量】縦47.4cm 横97.3cm

【時代】琉球国時代

【所有者】沖縄美ら島財団

琉球国のうち沖縄島及びその周辺の島々を一図に描いた測量図(編集図)で、琉球国王尚家に伝来した。冒頭に朱書にて「琉球国之図」と題を書す。題に続き「壹分ニ而二百間(※)」と記され、縮尺は13万分の1と知られる。陸地は各間切(行政区画)ごとに色分けし、道、川、村、拝所、火立所などを記号であらわし、地名や測量情報等を墨細字にて稠密に記す。末尾に「嘉慶元年(1796)丙辰九月九日」と年紀を書すが、歴史書『球陽』には、翌1797年に琉球国役人の高原景宅が作製した「本国惣図」と編集した測量術書を国王に上呈した記事がある。

本図は緻密な地図描写や豊富な文字情報が示すように完成度が高く、高原景宅が上呈した「本国惣図」の姿を彷彿させる地図である。18世紀に実施された琉球国内測量の情報等をもとに作製された地図で、当該地域の地物、地名などを網羅的に明らかにする。往時の沖縄島の地理を知る上の基礎資料として貴重で、琉球国の歴史、測量史、地図史上に価値が高い。



※「壹分ニ而二百間」：縮尺を示す文言。「壹分」 $\approx$ 0.3cm、「二百間」 $\approx$ 363.6m。

(意訳) 「地図上0.3cmは実寸で363.6m」

### 3 登録有形文化財（建造物）

#### （1）概要

名称：「島根殿<sup>しまにどうん</sup>本殿・拝殿・アガリニューウトゥーシ・鳥居」

【産業種別】宗教

【建造種別】建築物（本殿・拝殿・アガリニューウトゥーシ）  
その他の工作物（鳥居）

【登録地】沖縄県中頭郡北中城村字熱田東原 68-1

【所有者】熱田自治会

島根殿は、熱田神社または熱田御嶽とも呼ばれている。熱田集落は村域東海岸に位置する「碁盤目型集落」で、東側は太平洋に面し、西側は亜熱帯の照葉樹林で覆われた丘陵地となっている。島根殿は、その区画された平坦な区域のほぼ中央にある、熱田公民館の敷地内に建立されている。昭和15年（1940）の皇紀2600年を記念して、それまで地域信仰の象徴であった琉球石灰岩の祠であった「熱田御嶽」が鉄筋コンクリート造に建て替えられた。当時の皇民化政策による「御嶽の神社化」の様式を残す貴重な建築である。設計者は不明で、伝聞により、大宜味大工が施工に携ったのではないかと思われる。

#### （2）解説

##### ①島根殿本殿（写真1）

集落中心部に位置する旧御嶽を神社化した本殿。鉄筋コンクリート造<sup>いっけんしゃながれづくり</sup>一間社流造で、屋根に<sup>とりふすま</sup>鳥衾付鬼板を載せる。垂木を疎らに配って簡略化した形態だが、組物や絵様まで精巧につくる。昭和戦前に沖縄で進展した、御嶽の神社化を示す貴重な耐火建築の本殿。



写真1：島根殿

##### ②島根殿拝殿（写真2）

本殿の前方に建つ拝殿。木造平屋建入母屋造<sup>ひらやだていりもやづくり</sup>、琉球赤瓦葺<sup>ほうさんけん</sup>。方三間で角柱を立て、組物は舟<sup>ふな</sup>肘木。四方とも中央一間を開放とし、両脇間は腰壁を設ける。内部はタイル貼の土間で<sup>きお</sup>棹縁天井を張る。水滴瓦で軒先を飾り、地域の特色ある境内景観をつくる。



写真2：島根殿拝殿

③島根殿アガリユーヌウトゥーシ (写真3)

境内の東側に位置し、東方のニライカナ  
イに向かって豊穰を祈願する拝所。高い基壇  
上に立つ方一間、鉄筋コンクリート造  
切妻造平入、モルタル洗出仕上。正面中央  
に透鉄扉を開き、内部の祭壇に香炉を配する。  
小規模ながら重厚な姿で、独特な境内景観を  
形成する。



写真3：アガリユーヌウトゥーシ

④島根殿鳥居 (写真4)

本殿と拝殿の軸線上に建つ神明鳥居。  
全高3.3m、柱間2.7m、鉄筋コンクリ  
ート造、モルタル洗出仕上とする。一対の円柱  
を立てて、頂部に円柱の笠木を渡し、貫の  
楔くさびや額束がくづかも設けず、全体に簡素なつくり。  
境内の歴史的な景観を形成する鳥居。



写真4：島根殿鳥居